

1 「公共施設整備の基本的な考え方（素案）令和6年2月公表」 要約

● 函館駅前・大門地区の現状と課題

日常的な人の往来が減少し、地区の賑わいが低下しているため、賑わいを創出する必要がある。

● 施設利用者等

市民が活発に活動するとともに、観光客やビジネス客も立ち寄り賑わいのある施設を目指す。

● 市が考える公共施設のイメージ【たたき台】

公共施設「駅前・大門地区の特性を活かした、市民も観光客なども誰もが自由に集い交流する多機能型施設」

◎ 時代の変化に合わせて柔軟な空間づくりを可能とするフレキシブルフロアを採用した多機能型公共スペース

2階・3階フロア（各フロア 約1,000㎡）

Wi-Fi標準

動

「市民広場との一体的な活用も可能！ 多様なニーズに対応する交流空間」

- ✓ 可動棚やスライディングウォールで柔軟な空間活用と将来変化への対応
（例：市民も観光客も集い交流する多様なイベント開催 など）
- ✓ 観光スポットへの出発点（例：観光客のくつろぎ・憩いの場、観光案内 など）
- ✓ 壁面をスクリーンに！（例：平時は観光やイベント告知等の動画投影 など）
- ✓ 市民の健康づくり等の活動スペース
（例：軽運動、生きがいづくり、年齢や障がいの垣根なく誰でも楽しめるボッチャやモルック体験 など）
- ✓ 高速ネットワーク環境（例：eスポーツ大会開催、スポーツ観戦“パブリックビューイング” など）
- ✓ オープンキッチン（例：市民利用、イベント活用 など）



学

「誰もが利用したくなる！ 学びとくつろぎ空間」

- ✓ デジタルを活用した自然災害体験コーナー（例：VRによる津波避難等疑似体験 など）
- ✓ 学習・ビジネス向けワークスペース（例：軽食OK、修学旅行グループワーク、オープン空間 など）
- ✓ 作品展示等オープンスペース（例：子ども・高齢者・障がい者等の文化活動発表の場 など）
- ✓ ガラス張り防音室（例：市民活動・講座・会議開催 など）
- ✓ 図書機能（例：函館を題材にした書籍やガイドブック充実 など）
- ✓ プライバシーに配慮した相談室（例：団体等の相談事業 など）



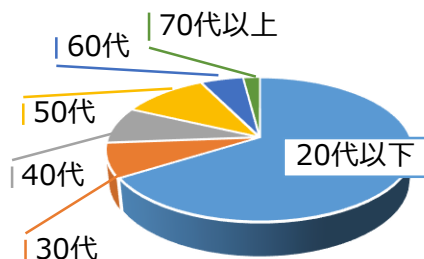
本施設において
「賑わい」とは、
市民が活発に
活動し、観光客
やビジネス客も
立ち寄り状況

2 Webアンケート（中間報告概要）

[実施期間] 令和6年4月12日 ～ 令和7年1月11日

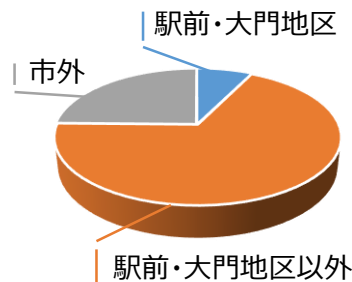
[回答者数] 870人

① 回答者の年齢



20代以下	575人 (66%)
30代	67人 (8%)
40代	71人 (8%)
50代	93人 (11%)
60代	46人 (5%)
70代以上	18人 (2%)
計	870人

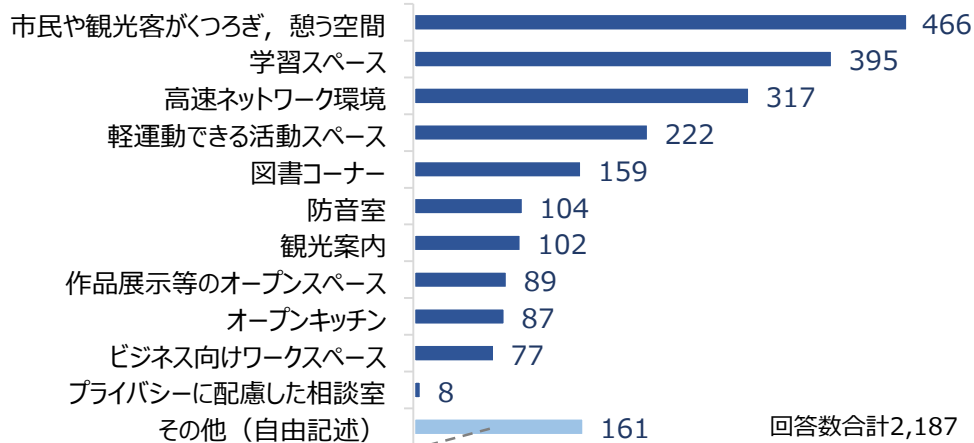
② 回答者のお住まい



駅前・大門地区	64人 (7%)
駅前・大門地区以外	591人 (68%)
市外	215人 (25%)
計	870人

③ 2フロア（各1,000㎡）の規模の中で、どのような公共施設があったら「利用したい（利用する人が多い）」と思いますか？

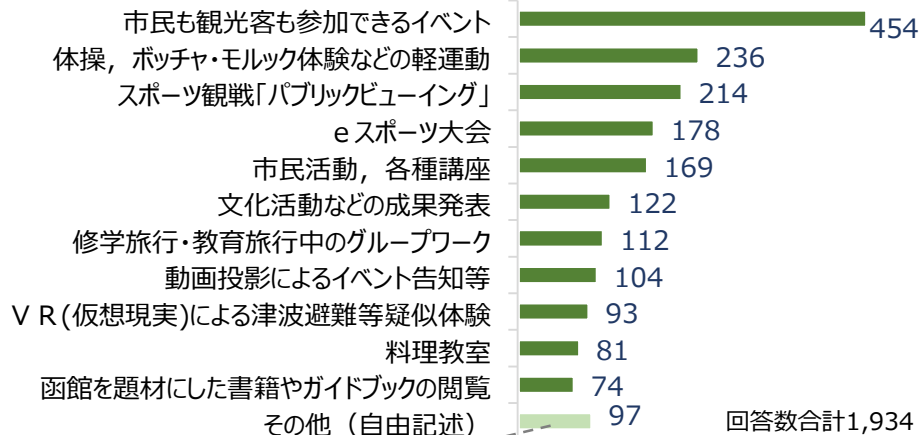
複数回答可（最大3つ）



[内訳] ・選択肢との重複回答や商業に関する回答 95件
・選択肢以外の回答 66件

④ この公共施設を「どのように使いたい（使えたら良い）」と思いますか？

複数回答可（最大3つ）



[内訳] ・選択肢との重複回答や商業に関する回答 43件
・選択肢以外の回答 54件

回答者の多くが、「市が考える公共施設のイメージ」と同じ方向性での利用等を望んでいる

3-① 公共施設整備に関する主な意見等【Webアンケートの主な意見】

動（交流）

◆機能（選択肢）

- ✓ 市民や観光客がくつろぎ、憩う空間
- ✓ 高速ネットワーク環境
- ✓ 軽運動できる活動スペース
- ✓ 観光案内
- ✓ オープンキッチン

◆使い方（選択肢）

- ✓ 市民も観光客も参加できるイベント
- ✓ 体操、ボッチャ・モルック体験などの軽運動
- ✓ スポーツ観戦「パブリックビューイング」
- ✓ eスポーツ大会
- ✓ 動画投影によるイベント告知等
- ✓ 料理教室

◆自由記述

- ・ 市民(学生)と観光客が交流できる施設
- ・ 観光関連の展示、販売ブース
- ・ イベントスペース（物販・飲食可）
- ・ JRの待ち時間などに時間を潰せるところ など

学（学び・くつろぎ）

◆機能（選択肢）

- ✓ 学習スペース
- ✓ 図書コーナー
- ✓ 防音室
- ✓ 作品展示等のオープンスペース
- ✓ ビジネス向けワークスペース
- ✓ プライバシーに配慮した相談室

◆使い方（選択肢）

- ✓ 市民活動、各種講座
- ✓ 文化活動などの成果発表
- ✓ 修学旅行・教育旅行中のグループワーク
- ✓ VR(仮想現実)による津波避難等疑似体験
- ✓ 函館を題材にした書籍やガイドブックの閲覧

◆自由記述

- ・ 大人も学生も使える学習、テレワークスペース
- ・ 学生の活動拠点スペース
- ・ 楽器の練習部屋
- ・ アート作品や楽器演奏等の発表の場（小ホール等）
- ・ 観光客に函館らしさや魅力を伝えられるミュージアム機能
- ・ 棒二の歴史展示
- ・ インバウンド観光客の避難所
- ・ 文化体験スペース
- ・ 大学のサテライト講義 など

その他

◆自由記述

- ・ 観光客や地元の人が行きたくなる「催事」が実施される施設
- ・ 子育て世帯が周辺を回遊したくなる場所
- ・ 若者が駅前大門地区に来るきっかけとなる施設
- ・ 完成時に時代遅れにならないものを作るべき
- ・ 外から室内の様子が分かる仕掛け（ガラス張り）
- ・ 企業等のPR、出店
- ・ 子どもも大人も遊べるアスレチック施設
- ・ ICTパーク（eスポーツ等施設）
- ・ 水族館
- ・ 駐輪場や大規模な市営駐車場
- ・ レンタサイクル
- ・ 手荷物預かり所
- ・ FM放送局 など

3-② 公共施設整備に関する主な意見等【市民説明会、関係団体等の主な意見（令和6年度実施）】

- 市民説明会(2回), 商工会議所, 商店街等の関係団体(8団体), 高校生や大学生団体等 延べ125人
- 令和6年2月公表『公共施設整備の基本的な考え方(素案)』をもとに, 「どのような公共施設があれば利用したいか」, 「どのように使用したいか」など, 公共施設の役割・機能等について意見聴取を行った。

動（交流）

- クルーズ船等の外国人観光客に向けた**文化体験交流**（折り紙・生け花・着付け等）
- 市民も観光客も訪れる駅前**で学生活動を発信し交流**したい
- 函館を象徴するもの, 注力しているもの, **函館の「今」を発信**する場所
- おすすめの場所を教えるマップ
- 移住促進や再来訪に繋がる**食文化等のPR場所**
- 充実した調理室 など

学（学び・くつろぎ）

- 学生が飲食しながら**気軽に過ごせる**場所
- **若い人が発表できる**スタジオやホール
- 市民活動の情報発信
- 博物館や美術館へ誘導するデジタルなど**視覚的・効果的な情報案内**
- 高齢者向けにバーチャルリアリティでの避難訓練
- 楽器等の貸出もある音楽室, 鏡のあるダンス練習室
- 地域活性化に繋がる高等教育機関のサテライト

など

その他

- 多目的なコンベンションホール
- 災害や防災の支援拠点
- 周辺町会の町会館機能
- 市役所の窓口機能
- ムスリムの礼拝堂 など

【施設の全般等への意見】

- W i - F i よりもコンセントが重要
- イベント開催状況や施設の空き状況をリアルタイムで確認できると良い
- 植物に囲まれ, 緑が多い公共施設
- 外から中の様子が見えるガラス張りの施設
- 向かいの「みらい館」や「キッズプラザ」との**差別化や連携**を考慮
- 集客に繋がるような目的を持った施設とすべき
- 企画展や催事は旅行目的の一つとなり得る
- 観光客は不確実性が高く, **市民の集客**を考えなければ活性化に繋がらない
- 駐車場不足への対応
- 駐輪場の整備 など

3-③ 公共施設整備に関する主な意見等【第1回検討会議等での主な委員意見】

動（交流）

- イベントや催事、講義を行えるスペース
- 音響・防音・照明機能等の設備も可動式にして実用的に
- 市民と観光客が自由に書き込める函館おすすめマップの設置
- 中高生向けの児童館的な機能、ダンスやバンドの練習場所
- キッチンは中途半端な機能で設置するよりも周辺施設の活用促進が望ましい
- 講義のための設備を揃えたレクチャースペース
- 観光客のためのオープンスペース
- 大学キャンパス以外で学生や研究者が交流できる場
- 冬も緑が楽しめる屋内緑地広場の整備 など

学（学び・くつろぎ）

- フリースペースは修学旅行中のグループワークやビジネス客利用で需要がある
- 高校や大学等のプロジェクト学習や公開授業との連携による施設の活用
- 出張者のためのオープンオフィススペース、長期滞在者のためのワークスペース
- 音楽や映画鑑賞、語学学習等ができる施設
- 市民の演奏会や演劇公演の場所
- 地域を知りたくなるきっかけとなるミニミュージアム（観光・郷土学習等）の設置
- 歴史・文化・産業・市民活動の展示など、函館観光への興味を広げる観光博物館機能や生涯学習機能
- 図書コーナーは需要がある
- 地元大学等の研究プロジェクトの展示
- 高画質Webカメラによる世界の観光地シアター など

その他

- 都市圏等で開催しているデジタルアート展やアニメ展覧会等の集客が見込める民間の催事や興行が行える機能
- 催事や集会ができるステージ付きホール
- 災害時の一時避難場所としての機能、防災用品の備蓄
- スタートアップ企業を誘致するためのスモールオフィス
- 札幌からの企業誘致や移住施策との連携 など

【施設の全般等への意見】

- 常時人の流れがあるところに展示スペースを設けるべき
- 外国人対応に繋がる案内サインの検討
- 観光の目的となるものが必要
- 施設利用者のメインターゲットの明確化
- 集客力のあるイベント誘致は営業人材や体制作りが必要
- 駐車場対応、渋滞等への懸念、駐輪スペースの確保
- ホテルやマンションも含めた施設デザインの統一感
- 6G通信機能などの先端設備 など

4 「公共施設整備の基本的な考え方」（原案）

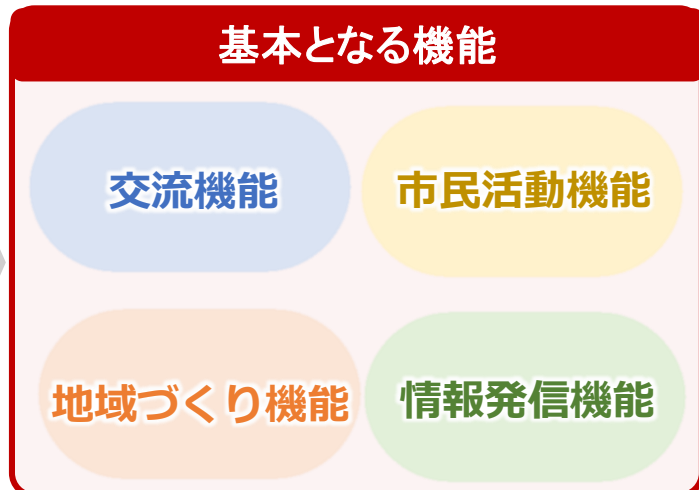
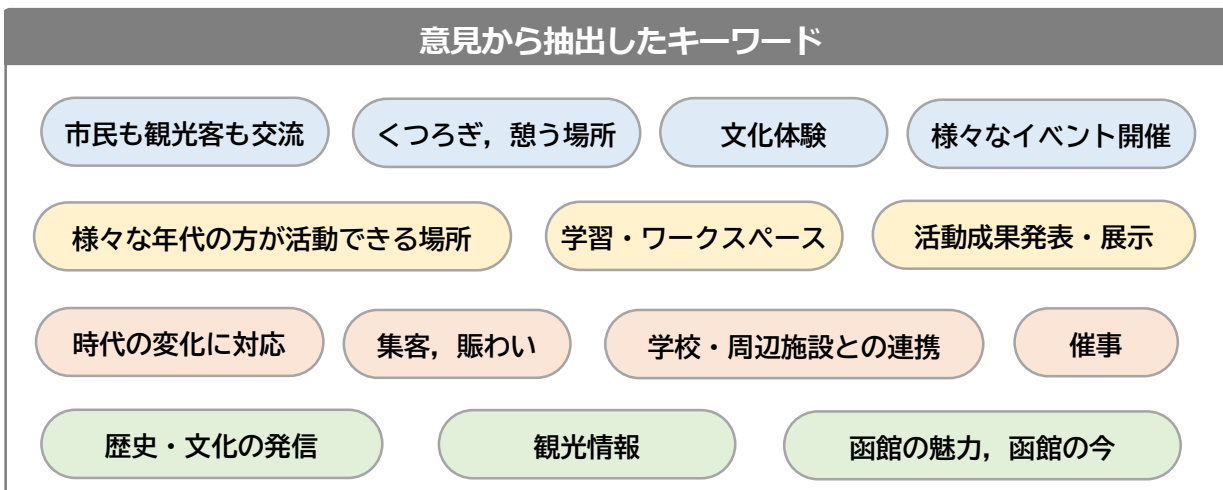
1 コンセプト

**駅前・大門地区の特性を活かした、
「市民も観光客なども誰もが自由に集い交流する多機能型施設」を整備します。**

2 基本的な方向性

- 社会変化や市民ニーズ、周辺環境、観光動向など、様々な時代の流れや変化に応じた取り組みができるよう、空間を柔軟に作り変えられるなどの利便性や機能性の高い空間を多く取り入れた施設をつくります。
- 市民利用に重点を置き、市民が活発に活動するとともに、観光客やビジネス客も立ち寄るような賑わいのある施設を目指します。
- 様々なソフト事業が実施できるとともに、周辺施設等との連携が可能となる施設を目指します。

3 基本となる機能



5 【参考】今後の対応について

(1) 基本計画・基本設計の策定に向けた対応

「公共施設整備の基本的な考え方」(コンセプト, 方向性, 機能等) が基本計画・基本設計に十分反映されるよう, 業務仕様書の作成に留意し, 公募型プロポーザルにて事業者を選定。

(2) 施設整備に関するコスト縮減等の検討

建設コストや将来のランニングコストを考慮するとともに, 財源負担の軽減に繋がるよう国庫補助金の活用を検討。

(3) 施設利用者の交通アクセスへの対応

施設利用者の来館に関しては, 立地特性から公共交通の利用を促すことを基本としながら, 自転車や自動車での来館に十分対応でき, 渋滞等を招かないよう対応策を検討。

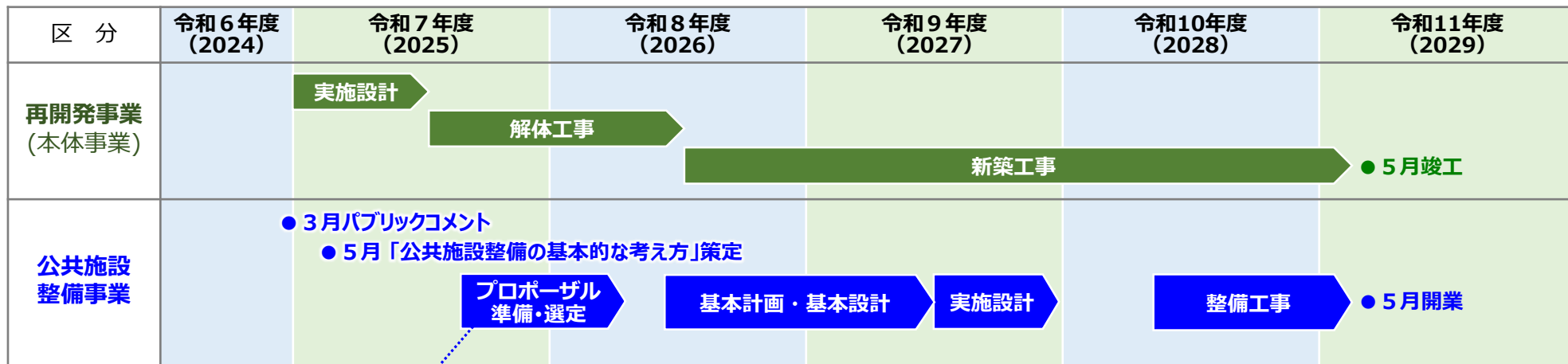
(4) 災害時の対応

当地区は津波浸水区域であり, 災害対応への意識啓発や一時的な避難所としての活用等について検討。

(5) 施設の運用

本施設を活かした様々なソフト事業や, 周辺施設と連携した事業展開について検討。

(6) 今後のスケジュール



事業計画・基本設計を行う事業者を選定する

※公共施設整備スケジュールについては, 再開発事業の全体工事の状況等により変更となる可能性がある。